資料：東川町

実施主体	東川町教育委員会

平成１９年度国際教育推進プラン報告書

１　実施主体

北海道　東川町教育委員会

２　実践学校名

中核校

学　校　名	所　　在　　地	児童・生徒数	教員数
東川町立東川第三小学校	北海道上川郡東川町東８号南１番地	１７	６

協力校

学　校　名	所　　在　　地	児童・生徒数	教職員数
東川町立東川幼児ｾﾝﾀｰ	北海道上川郡東川町西４号北８番地	１０４	５
東川町立東川小学校	北海道上川郡東川町北町１丁目１番１号	３５１	３１
東川町立東川第一小学校	北海道上川郡東川町西１０号北２４番地	２７	７
東川町立東川第二小学校	北海道上川郡東川町西４号北３０番地	４３	８
東川町立東川中学校	北海道上川郡東川町北町１丁目５版１号	２３６	１６
北海道東川高等学校	北海道上川郡東川町北町２丁目１２番１号	２２６	１９

３　連携先ＮＰＯ法人等名

◆東川町国際交流文化会　◆北海道東川ラトビア交流協会（旧東川町ﾗﾄﾋﾞｱﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）

◆ＮＰＯ法人ねおす（大雪山自然学校）

［※連携する大学・企業］

＊北海道教育大学旭川校

＊北海道大学留学生センター

＊旭川医科大学（国際交流）

＊北海道録画センター（株）オーラス研究所

４　平成１９年度の実践活動

平成１９年７月１１日に東川町国際教育推進協議会を設置し、本事業のねらいの達成に向け、以下の内容を実施した。

○　幼児児童生徒、保護者、教職員を対象とした意識調査の実施

○　国際教育の視点によるこれまでの教育活動の整理

○　研修会、ワークショップ、学習会の立案と実施

○　連携機関と協力した教育活動

○　写真活動による国際教育の推進

○　外国人との交流活動の推進

○　先進地域の視察

全町小・中学校の教員を対象としたワークショップ

資料：東川町

（１）取組内容

○　幼児児童生徒、保護者、教職員を対象とした意識調査の実施

東川町の国際教育のねらいは『国際化に対応できるたくましい児童生徒の育成』である。このねらいの達成のためには、幼稚園から高等学校までの幼児児童生徒の発達段階を踏まえた在園、在校期間における一貫したカリキュラムの改善が必要である。

そこで、カリキュラムの編成にあたっては、家庭や地域を含めた全町的な取組により全町民の意識化を図るとともに、家庭や地域住民、幼児児童生徒、教職員が本町の国際教育の実態やニーズを把握するため、下記のような調査を実施した。

ア　調査目的　幼児センター、小学校、中学校、高校で実施している国際教育について、幼児児童生徒及び保護者、教員の意識やニーズを把握することにより、今後の東川町国際教育の充実・改善に生かす。

イ　調査対象
- A　幼児センター（年長組全園児）及びその保護者
- B　小学校（４校）第３～６学年の全児童及びその保護者
- C　中学校第１学年とその保護者
- D　高校第１学年とその保護者
- E　幼児センターから高校までの校長(園長)、教頭(理事長)、教員

ウ　調査期間　平成１９年１２月１１日～２５日

エ　回 収 率

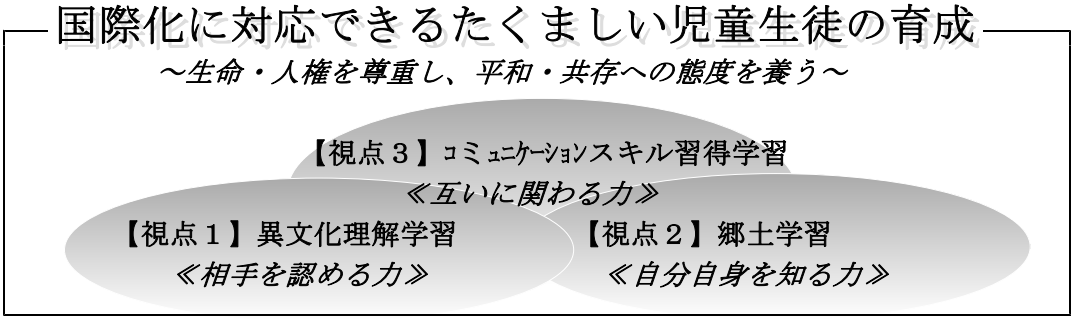
	園児・児童生徒	保　護　者	教　　員
回収率（%）	８１．３	７３．８	８５．７

(平成19年12月27日段階)

オ　結果報告　平成２０年２月中旬

○　中核校及び協力校における実態調査と国際教育の視点による整理

本町の国際教育のねらいは、下記の３つの視点（学習構造）により考えている。



この３つの視点（学習構造）が幼児センター及び各学校の現行の教育課程（各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間）において、どの程度位置付けられているかを調

査し、現在の取組状況を把握した。

［抜粋例］

		４月	５月	６月	７月	８月
異文化理解学習 単元・教科時数	幼稚園	アシュリー（ALT）と遊ぼう				
	小学校		英語活動（1）総合 めだかクラブ（2）生活・総合 みんなとたのしく挨拶 生活	英語活動（1）総合 めだかクラブ（2）生活・総合 リズムに乗って遊ぼう 音楽	英語活動（2）総合 めだかクラブ（2）生活・総合 住みよい暮らしと環境 社会	英語活動（1）総合 めだかクラブ（2）生活・総合
	中学校	ホーマーの絵の鑑賞（1）美術 トロントの街について（1）英	ビバルディーの春（4）音楽 中国の弦楽器「二胡」（1）英	日米のペット事情（1）英	アメリカの中学校の日課（1）英	
	高校		スティービーワンダーの生涯にふれる（3）英語Ⅰ		写真部日韓写真交流参加Ⅰ鳥取）	写真部日韓写真交流参加（韓国）

○　連携機関（北海道東川ラトビア協会，ＮＰＯ法人ねおす）と協力した教育活動

（ア）北海道東川ラトビア交流協会との協力「ラウマ・スクリデさんを招いて」

北海道東川ラトビア交流協会の協力を得て，ヨーロッパで新進気鋭ピアニストとして活躍しているラウマ・スクリデさんを東京でのコンサート開催前に本町へお招きし，小学校でミニコンサートを開催した。

子どもたちは，プロの生の音楽に触れるとともに，音楽を通して異文化について学びながら，ラウマ・スクリデさんとのコミュニケーションを楽しんでいた。

（イ）ＮＰＯ法人「ねおす」との協力「大雪山子ども自然学校」

本町は，大雪山国立公園の主峰「旭岳」をはじめとする山岳エリアが広がり，その豊かな自然に支えられながら農業や観光などの産業がある。

こうした郷土の自然の素晴らしさにふれ，郷土の素晴らしさを学ぶ機会として「大雪山冬の自然学校」を開催した。

子どもたちはスノーシューという用具を靴に装着し，旭岳の冬山の新雪を歩きながら，キツツキが樹木に彫った穴を発見したり，小動物の足跡の特徴を調べたりしながら広大な旭岳の自然に浸り，郷土の素晴らしさを実感していた。

○　写真活動による国際教育の推進

本町は「写真甲子園」を開催していることから，国際教育の取組に写真を活用した実践ができないものかを検討し，今年度，各校にてその実践を進めてきた。

写真を通して，郷土のよさや美しさを撮影者の感性と視点で捉えることができたり，また，被写体によっては異文化の理解につながっていったり，撮影したものを交流することによりコミュニケーションが図られたりと，本町の国際教育のねらいに沿った活動が展開できるのではないかと考えている。

＜実践例＞

小学校・・・地域のプロの写真家を招いて，写真の撮り方を学ぶ。学んだことを生か

し，地域のよさを発見しながら，写真で表現し伝え合う。

中学校・・・夏休みの課題として，自分が一番伝えたいことを撮影し，発表し合う。中学生全員が取り組んでいる。

高等学校・・写真部が日韓写真交流に参加し，異文化理解やコミュニケーションを図った。

○　外国人との交流活動の推進

文化庁国際芸術交流支援事業及び２１世紀東アジア青少年大交流計画による受入れを積極的に行い、町内の小学校や中学校、高校の児童生徒との交流活動を推進した。

（ア）2007日印交流年記念「セライケラ仮面舞踏公演」(文化庁国際芸術交流支援事業)

○交流開催期日　平成19年７月17日（火）～18日（水）
○交　流　学　校　＜7/17＞町内小学校（４校）　※各学校４５分
＜7/18＞中学生及び一般公開　※東川町農村環境改善ｾﾝﾀｰ

東インド・ジャールカンド州セライケラ地方の伝統的な「セライケラのチョウ」の仮面舞踏を見学した。

その後、舞踏団員から「踊りの基本的な動き」の指導を受け、子どもたちは一緒に体を動かし楽しみながら、インドの文化を肌で感じ取っていた。

（イ）２１世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)プログラム

○目　　的　青少年交流を通じた相互理解の促進を図り、町内の児童生徒の国際教育を推進することにより、国際社会で活躍できる人材を育成する。
○交流内容　授業への参加、異文化交流活動（時刻の紹介等)、学校給食の体験等
○実施日時　平成19年12月17日（月）10:30～13:15　各小・中学校
13:50～15:30　東川高等学校

東アジアの高校生10名と引率教員１名が来町し、各小・中学校に２～３名ずつに分かれ交流を行った。

「国語（書写)」「体育」「音楽」等の学習や集会活動での交流、英語活動におけるオールイングリッシュでの質問コーナーなど、各学校とも工夫を凝らした内容で実施できた。

○　先進地域の視察

文部科学省国際教育推進プランの採択を受けて以来、各ＮＰＯ法人や大学、及び各関係機関の指導・助言を受けながら、本町における国際教育の内容等について、試行錯誤しながら取組を進めてきているのが現状であり、町全体としての取組のイメージや各学校において具体的に何をどうすればよいのかなど、国際教育の視点から教育全体を見直すことの難しさや、具体的実践にまでたどりつかないという課題の解決のため、先進地

域の視察を通して、各地域の取組について学ぶ機会を設定した。

○視察地と時期	上越市教育員会、上越市立針小学校、上越市立板倉中学校 （平成19年11月8日～9日） 神奈川県藤沢市教育委員会、藤沢市立湘南台小学校 藤沢市立湘南台中学校 （平成19年11月13日）

本町と環境的にも類似している上越市や本町と全く異なった地域環境である藤沢市の視察を通し、新たなことを展開していくのではなく、地域の実情を見つめ、現状の教育活動を国際教育の視点から見直しながら、授業改善、指導力の向上を図り、教育活動を展開していくことの重要性を確認した。

○　研修会の実施

中核校である東川第三小学校は、４年前から英語活動及び授業づくりに取り組んでおり、数々の実践発表を行ってきているが、国際教育の視点を重視した英語活動とするための指導方法の研修会を実施した。ワークショップ形式で行い、お互いに効果的な指導方法について学び合う機会となった。

本町では，英語＝国際教育ということではなく，英語（または，他の外国語）を通して，異文化理解やコミュニケーション能力の育成をはかる授業づくりを目指している。

（２）取組内容の成果

今年度は、特に実態を把握するという観点での取組が中心となった。幼児児童生徒、保護者・地域住民の意識や要望を実態調査によりとらえることができ、今後のカリキュラム編成において参考になった。

また､これまで実践してきた各学校の国際教育の活動を共通の観点で見直すことができ、目的や方法の共有化を図ることができた。

（３）来年度の課題

○　実態調査による地域・保護者のニーズを取り入れた具体的なカリキュラム編成を行う必要がある。

○　カリキュラムに沿った実践を全町的に推進していく必要がある。

○　取組の実践・検証を通して、東川町国際教育カリキュラムを一層工夫していく必要がある。

○　各種関係機関等と連携した事業などをさらに推進していく必要がある。